

私たちの活動を紹介します

境港市

さかいみなと 中野港漁村市実行委員会

＜事務局長＞^{はまの}濱野 ^{まさかず}政和さん

＜設立＞平成 25 年
＜連絡先＞電話 090-7122-4390
メール h-march@gaea.ocn.ne.jp



大山を望み漁村の風情漂う沿岸漁業の基地 中野港

境港市にあるもう一つの漁港、中野港が舞台

ベニズワイガニの普及と付加価値向上を目的に、生産者や仲買、行政、観光関係者などにより、境港・ベニガニ有志の会が結成されていました。この会が母体となり、平成 25 年に、古くからある沿岸漁業を盛り上げたいと、沿岸漁業者を巻き込んで「さかいみなと中野港漁村市実行委員会」を立ち上げました。境港市にあるもう一つの漁港、中野港の魅力化事業に関わり、水産の実働部隊として企画、立案、実行をしています。また、未就学児への食育活動や県立境港総合技術高等学校での魚を使った食品開発の課題研究などにも取り組み、カニやまぐろだけではなく、地元の「魚」にまつわる活動を続けて今年で 12 年目を迎えます。

漁業者・仲買人・消費者がつながる場の復活を

「さかいみなと中野港漁村市」は、小型底引き網漁が解禁される 5 月から 9 月の間に、年 4 回ほど中野港で開催しています。大山を望み漁村の風情漂う沿岸漁業の基地なので「漁村市」と名付けました。沿岸でとれる新鮮な魚介類のほか、美保湾で養殖されるサーモン、干物や缶詰、バーガー、弓ヶ浜餅など多くの特産品の販売も行っています。来場者に「沿岸漁業ってなんのこと？」と聞かれるとはっとします。昔からある沿岸漁業を将来に引き継ぎたいという思いに駆られるからです。中野港漁村市は単なる魚の販売イベントではなく、漁業者・仲買人・消費者が、魚を中心に三方よしとなってつながる場です。

漁港がある町で育つ子どもたちが地域をつくる

漁港がある町で育つ子どもたちに魚の味を覚えて大きくなってほしいと、未就学児を対象に魚食普及を 10 数年継続しています。今年は当時、年長だっ

た子どもたちが 18 歳を迎え感慨深い年です。幼稚園には出前で出張し、カニやまぐろがどうやって獲れるのか、獲れた魚がどのような流れでみんなの口に入るのか、子どもたちに伝える活動も行いながら、水産の町として未来への種まきもしています。

本マグロの内臓の有効活用に着目し、県立境港総合技術高等学校が本マグロの胃袋を使った缶詰づくりに挑戦したところ、これが全国の高校生が缶詰の開発をするアイデアコンテスト「LOCAL FISH CAN グランプリ 2022」でグランプリを獲得しました。また、高校生たちは中野港漁村市では欠かせないスタッフとして活躍してくれています。



漁村市で来場者に接客対応する高校生たち

「都会チック」なことをしない、という流儀

日々、机にもまな板にも向かって思いますが、きっと「都会チック」なことをしても田舎では根付きません。日本一の田舎だからこそやりたいことを達成でき、継続することができると思います。熱い思いを持つ人間どうしで、ギュッと詰まったアクションをしていきたいです。

令和 6 年の「さかいみなと中野港漁村市」は残り 2 回。7 月 13 日 (土)、9 月 14 日 (土) に予定しています。ぜひお越しください！